

【治山課所管 事後評価審議資料】

○地域防災対策総合治山事業（春日地区）

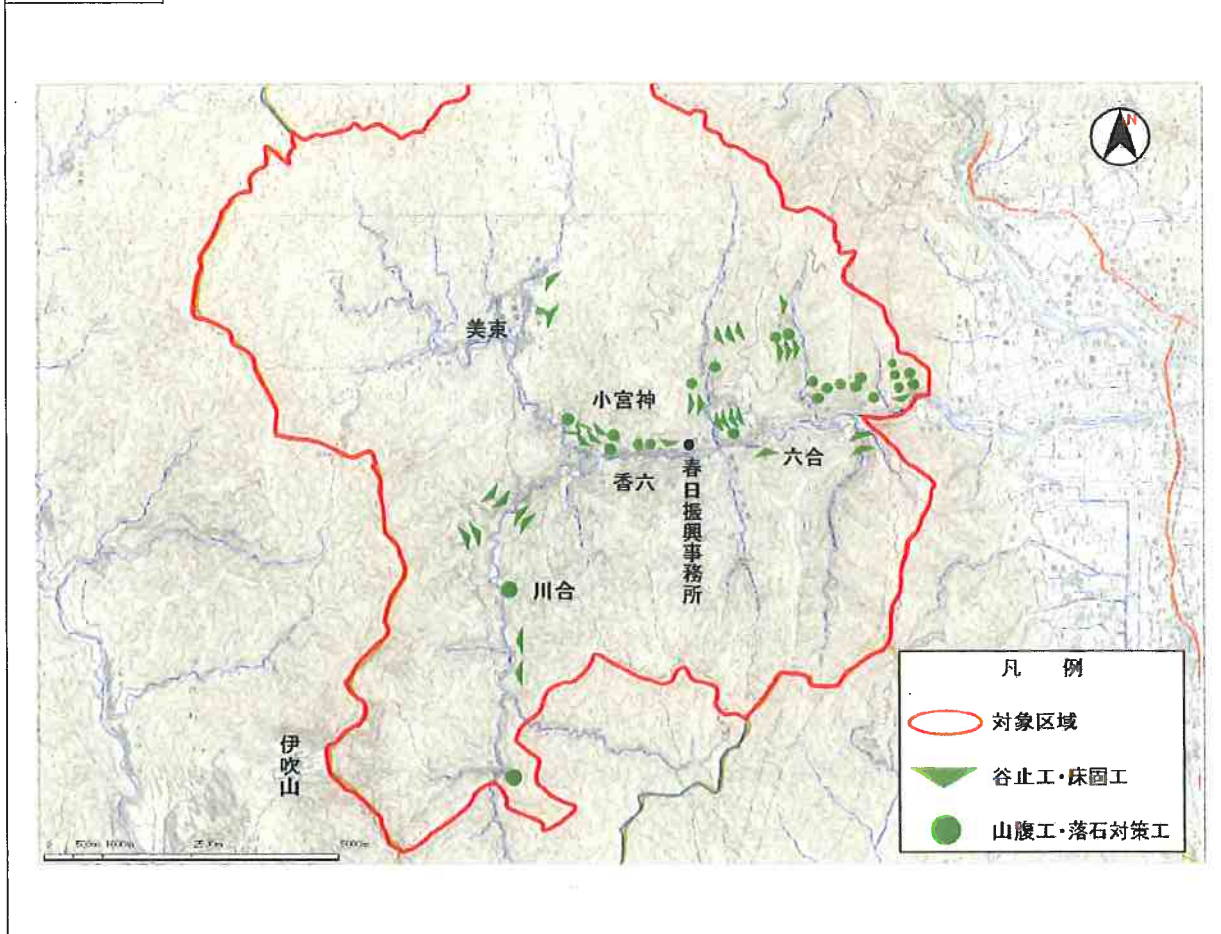
- ・事後評価箇所表
- ・説明資料（パワーポイント）

(別紙2)

平成23年度事後評価箇所表

番 号	3	事 業 名 (路線名等)	地域防災対策総合治山事業 (揖斐郡揖斐川町春日)	
実施箇所	揖斐郡揖斐川町(旧春日村)		全体事業費	1,963百万円
採択年度	8年度		完了年度	17年度
事業目的	<p>当地区は、滋賀県との県境にある伊吹山の東側に位置し、700～1,000m前後の山々に囲まれた急峻な地形の箇所である。</p> <p>また、急峻地形に加え県の平均降水量を大幅に超える多雨地域であり、豪雨のたびに山腹崩壊や溪岸浸食が発生し、地域全体の荒廃が進んでいる。</p> <p>この地域には、古くに先人が急峻な谷と山に囲まれた地形に集落を開き、今日に至るまで多くの住民が生活している。</p> <p>また、集落間を結ぶ県道も急峻な山腹斜面を通過しており、災害等により道路が通行不能になると、迂回路が無い春日地区は孤立する恐れがある。</p> <p>このような状況から、山地災害による被害の防止と軽減を図るため「地域防災対策総合治山」を事業採択し治山施設による整備を行った。</p>			
事業概要	<p>治山施設整備 : 谷止工30基、土留工33基、山腹工2.5ha、落石対策0.74ha</p>			

概要図



評価結果	
① 住民参加・協働による効果	
【住民協働の取り組み状況】	
	<p>計画時および実施時において、地域住民等からの情報や意見要望等を伺い、事業を実施したところ、地域の森林の現状と危険箇所が認識され防災意識の向上が図られた。</p>
② 事業効果	
	<p>春日地区を粕川沿いに縦断する県道や急峻な斜面に形成された集落、特産品のお茶をはじめとする農地や森林を保全することを目的に、荒廃渓流や安定と崩壊地の復旧を図ったことにより、山地災害の防止や軽減に繋がった。</p>
	<p>落石防止工の施工により住居等への落石を防止し住民の不安感が解消されている。</p>
	<p>本事業の実施により、春日地区内の山地災害危険地区における治山事業の着手率が、86%から92%となり6ポイント増加した。</p>
	<p>また、不安定土砂は谷止工の設置により約15,000m³捕捉され、荒廃森林は、土留工、緑化工の施工により2.5haの復旧が図られたことから、荒廃森林は約1.7haに減少した。</p>
③ 環境面への配慮	
	<p>工事施工による、土地の改変、樹木の伐採を必要最小限にとどめ、現存する植生を極力残した。緑化工では、在来種を主体とした種子配合とした。</p>
	<p>自然素材である間伐材を丸太柵工と谷止工流末整備に利用した。</p>
④ 事業を巡る社会情勢の変化	
	<p>事業実施期間中の平成9年には、入浴施設「かすがモリモリ村」がオープンし、年間6万人以上の集客がある。</p>
	<p>山地に起因する災害に対して安全が確保され、地域住民だけでなく地域外からの往来者の不安の解消に繋がったことから、住環境など生活環境整備の一端を担うことが出来た。</p>
⑤ 利用者・地域住民等への効果	
	<p>地域住民を対象としたアンケート結果から、事業の満足度は、「満足」と「どちらか」といって満足」を併せた回答が35%を占め、「不満」と「どちらか」といって不満」を併せた回答の8%を大きく上回った。</p>
⑥ 対応方針	
【今後の事業評価の必要性】及び【改善措置の必要性】	
	<p>事業効果が現れていること、アンケート等の結果から地域住民の満足度や安心度も高いことから、今後の事後評価の必要性は無いと判断する。</p>
【新規事業へ適用すべき事項】	
	<p>治山施設の整備に加えて、その周辺森林を適切に管理することが重要である。</p>

地域防災対策総合治山事業

揖斐郡 揖斐川町 春日 地内

岐阜県林政部治山課



事業概要

事業名:地域防災対策総合治山事業

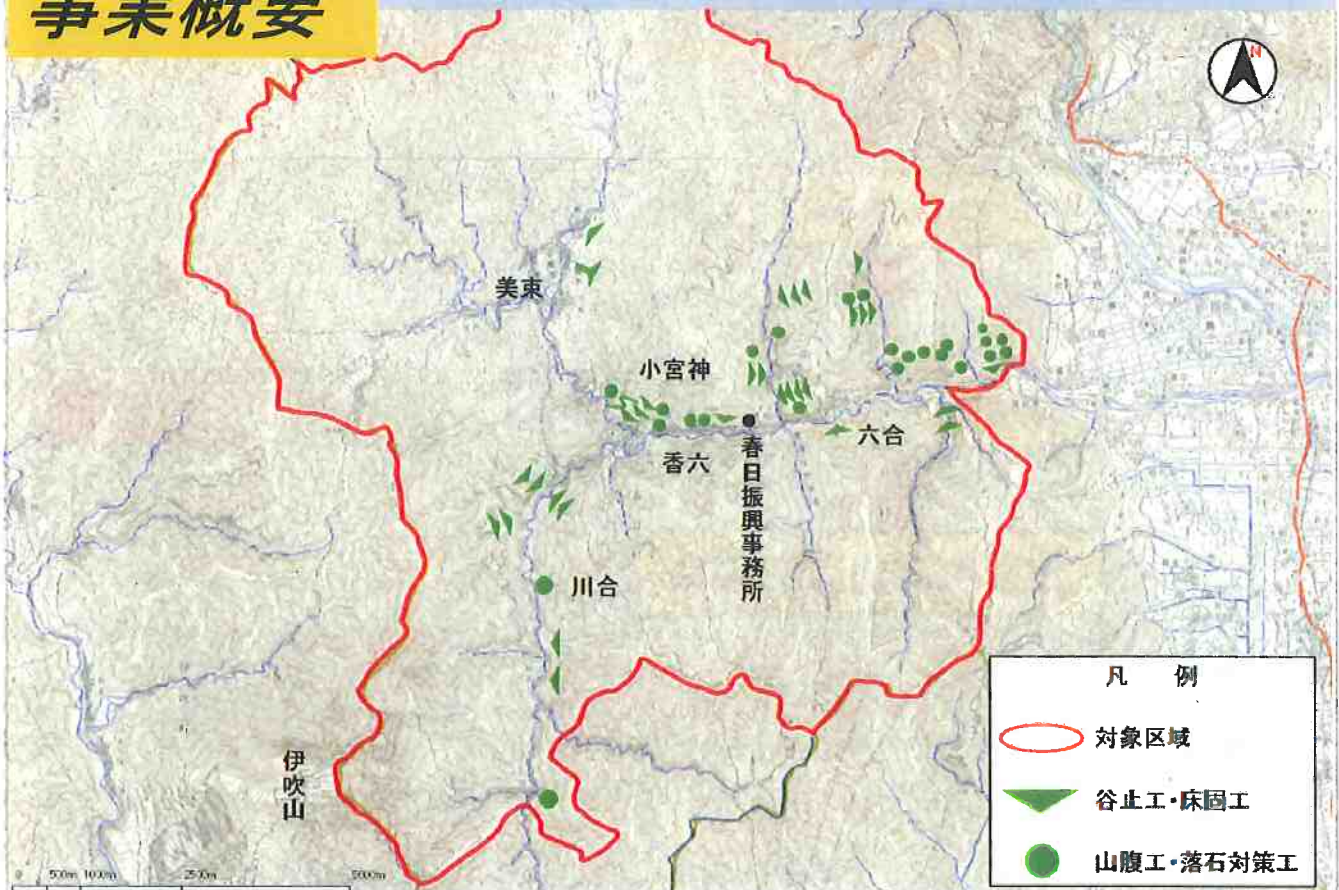
事業内容

荒廃山地、荒廃危険山地等が存在する地域において、山地災害を未然に防止するため総合的に整備を行う。

- 事業期間：平成8～17年度
- 総事業費：(当初) 2,000百万円
(最終) 1,963百万円
- 整備対象区域面積：9,309ha
- 主要工事：

谷止工	30基
土留工	33基
緑化工	2.5ha
落石対策	0.74ha

事業概要

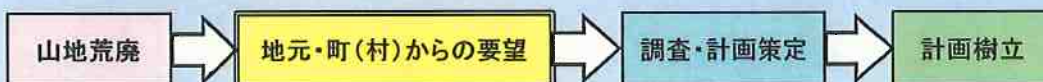


評価の視点

1. 住民参加・協働による効果
2. 事業の効果
3. 環境面への配慮
4. 事業を巡る社会情勢等の変化
5. 地域住民への効果
6. 今後の対応方針

1. 住民参加・協働による効果

○計画段階



○事業期間中



土砂災害対策協議会



2. 事業効果

事業開始頃(平成8年)の状況



事業後(平成18年)の状況



春日 六合 付近

2. 事業効果

谷止工 (六合 鹿虎 地内)

保全対象



整備前



平成16年撮影

現在の状況



平成23年撮影

2. 事業効果

山腹工（六合峰山谷東 地内）

整備前



平成9年撮影

整備後



平成10年撮影

現在の状況



平成23年撮影

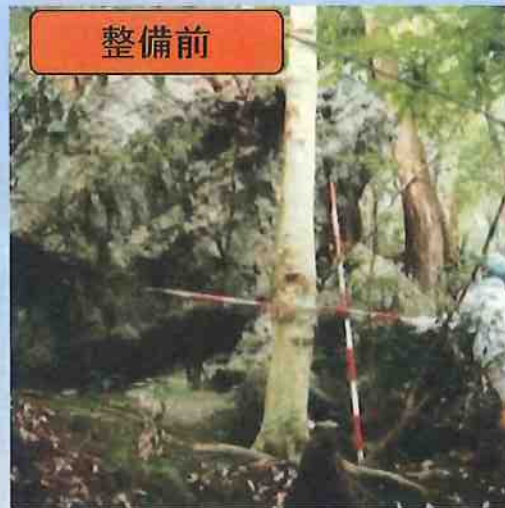
2. 事業効果

落石防止工（六合下ヶ流 地内）

保全対象



整備前



整備後



2. 事業効果

①山地災害危険地区における治山事業着手率の向上

地区総数: 49

H8 : 86%



H17 : 92%

②解消された不安定土砂量

15,000m³ (10tトラック 約2,700台分)

③荒廃森林の減少

H8 : 4.2ha



H17 : 1.7ha



谷止工30基で15,000m³の不安定土砂を抑止(10tトラック約2,700台分)



荒廃面積4.2haの内、2.5haを復旧(区域内荒廃面積の約60%を復旧)

2. 事業効果

建設コストの縮減率



縮減項目	縮減内容	縮減額
落石対策工法の見直し	落石の待ち受け工法から発生現対策工法への見直し。	44,900千円
治山ダムの間詰同時打設	治山ダム提底部の間詰コンクリートを本体と同時打設を行い型枠を軽減。	1,740千円
合計		46,640千円

2. 事業効果

費用対効果

○比率構成

・山地災害防止便益 100%

○投資的效果率

$$\frac{\text{効果額}}{\text{事業費}} = 3.38$$

3. 環境面への配慮

固定工(ワイヤーロープ伏工)



生育木を残し施工が可能な工法

3. 環境面への配慮

丸太柵工



下流側から上流を撮影
平成12年撮影

間伐材を利用した工法

平成23年撮影



上流側から下流を撮影

現在の植生の状況

4. 事業を巡る社会情勢等の変化

かすがモリモリ村
(平成9年4月オープン)



○薬草風呂や、薬草を使った薬膳料理が楽しめる入浴施設。

生活環境整備

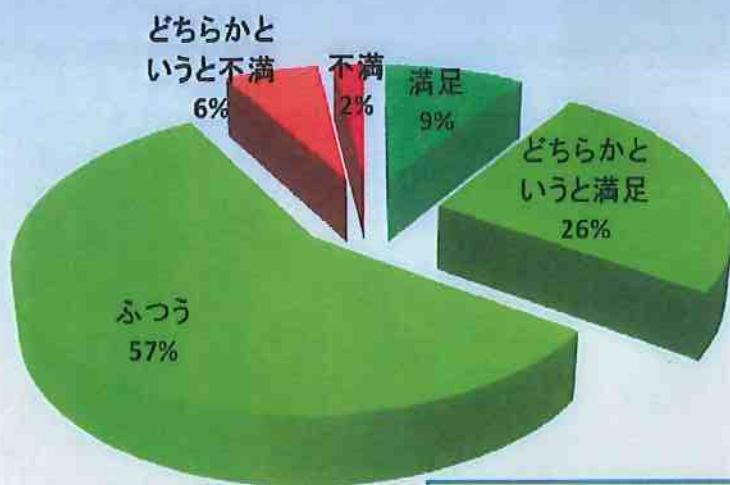


○生活基盤である住環境や道路の安全を確保するための施設整備

5. 地域住民への効果

春日地区関係住民496世帯にアンケートを実施。内、127世帯からの回答結果。

事業の満足度



<住民からの主な意見>

- ・山から土砂が出なくなった。
- ・岩盤の崩落がなくなった。
- ・公共事業はこの地区で必要不可欠である。
- ・行政が春日地区への関心と努力している姿勢が見えた。
- ・自然環境が悪化したように感じる。

6. 今後の対応方針

①今後の事業評価の必要性

『必要なし』

②改善措置の必要性

『必要なし』

③新規事業へ適用すべき事項

治山施設の整備



適切な森林の管理



防災力の向上